

2022年1月東京事務所開設を目指します!!

理事長 山口 育子

理由は“発展的継続”

2020年——今年はCOMLにとって大きな節目である30周年を迎える年です。10周年、20周年のときは異なる重い責任すら感じる“30周年”です。その年頭にあたり、皆さんにとっても大切な私の“決心”をお伝えいたします。

ここ数年ずっと考え抜いてきたことですが、2022年1月に東京事務所を開設し、COMLの中核機能を東京に移すことを決めました。オリンピックまでは何かと割高なので、それが落ち着いた2021年5月にまず私自身が東京に移転し、本格的に事務所探しをして2022年1月の開設を目指したいと考えています。

毎月11ページの活動報告をご覧ください。皆さんの声からは、「すごいスケジュールで目が回りそう」という声が届くことも少なくありません。それだけに、「東京へ事務所を? たしかにこれだけ東京滞在が多いと、移動だけでも大変だからでしょう?」「このまま齢を重ねると身体がもたないからよね?」と思われた方もいらっしゃると思います。

しかし、理由は私の移動の大変さではありません。ありがたいことに、私は移動では疲れないタイプなのです。ですので、いまのようなスケジュールは、まだしばらくは問題なく対応できると考えています。

それなら何が理由なのか——。COMLの発展的な継続を考えたときに、東京を中心にするしかないと判断したからなのです。

“私らしさ”を展開した結果——

2011年に他界した創始者の辻本好子とも、かつてCOMLの将来については何度も話し合いました。辻本は「東京には私たちが進出するまでもなく、多くの活動をしている人がいる」と、東京で活動を展開することに消極的というより否定的でした。2010年度に現在の「医療をささえる市民養成講座」の出前講座を東京でしたいと私が言い出したとき、「あなたって、ほんとうに大胆で勇気があるわね」と半ば皮肉のように言われました。2009年に開始したこの講座が思いのほか盛況だったので、その勢いに乗って私が半ば強引に実施したと言っても過言ではありません。そのため、辻本の存命中は東京事務所開設など、まったく考えていませんでした。

また、私がCOMLのスタッフになる前から会報誌に連載していた『遊病日記』というエッセイを出版する話が1990年代初旬にありました。実際に1冊の本にするべく原稿をまとめたのですが、COML草創期に個人的な出版は控えたいと考え、出版しませんでした。それは私の自主的な決断だったのですが、辻本はそう決心させたのは自分だと受け止めたようで、生涯、自らの著書を発行しようとしませんでした。そのため、私は「COML編の本を発行しても、著書は発行しない」と、話し合うこともなく、半ば暗黙の了解のように思い込んでいました。

さらに辻本は、「24時間365日COMLにすべてを捧げるなんて、私とあなた以外に期待するのは無理。だから、COMLは2代で役割を終えても仕方ないと思っている」とも内々に話していました。

ところが辻本は2010年の20周年直後に胃がんが見つかり、手術の結果、ステージはIV。術後の説明で受けた宣告通り、1年でこの世を去ってしまいました。その後2年ほどは辻本の想いに反することをしてはいけないと、無意識の呪縛を感じていたことは否めません。しかし、徐々に「私らしいやり方でCOMLの活動を進めてもいいのではないか」と自然に思えるようになりました。そうして、さまざまな講座を東京で開講し、岩波新書『賢い患者』という私の著書を発刊し、電話相談も2019年5月から東京で始めています。

私の最後の役割を果たして COMLの継続を

長く活動を支えてくださった関西の方にとっては「やっぱり中央(東京)なのか」と残念に思われる方も数多くいらっしゃると思います。私自身も長くご支援くださった方を裏切るようなことになるのではないかと、いまなお心苦しさを感じています。

しかし残念ながら、厚生労働省、文部科学省、医療関係団体の本部は東京に集中しています。情報もやはりまだまだ東京に集約されています。そして、何よりもCOMLの将来を担うであろう若い世代の参加が得られるのは、圧倒的に東京なのです。

そんな思いが募っていた私に、最後の決断を促してくれたのが、2018年12月に開いてもらった東京での出版記念パーティでした。そこには私が現在、仕事をともにしている関係者が集ってくださり、ご挨拶いただいた医療

関係団体の上層部の方々が、口々に「COMLはもはや協力者ではなくパートナーだ」「仲間だ」「同志だ」とともに医療を育てていこう」というメッセージを発してくださいました。COMLがスタートした1990年には想像すらできなかったメッセージの数々でした。「COMLがずっと目指してきた“協働”の機運が確実に高まっている。COMLを潰してはいけない。何としてでも継続させたい」という想いが私に決心することを強く迫ってきたのです。

私は現在、54歳です。電話相談にしても、模擬患者にしても、さまざまなセミナーや講座にしても、COMLの活動を担うには一定の経験が必要となります。それを考えると、60歳を過ぎてから後継者育成に取り組んだのでは間に合わない——その想いがずっとありました。だとすれば、どこまで生きられるかはわからないけれど、私の最後の働きをあと15年と設定し、徐々にフェードアウトしながら役割を移行していくには、今準備を始めるしかない——。その結論に至ったのです。

30周年の記念イベントにご参加ください!!

もちろん、大阪でおこなっている電話相談は可能な限り継続したいと思っていますし、模擬患者は関西にメンバーがいますので、現在の担当スタッフが中心になって継続していく予定です。病院探検隊は依頼があれば全国各地に派遣していますので、これまで関西で参加してくれたメンバーには関西周辺の探検隊依頼があれば協力を要請したいと思っています。

ただ、2022年1月を待たずに“変化”を考えていることがあります。現在、大阪での電話相談は曜日を集約して月・水・金・土のみ対応していますので、現在の事務所の空間を十分使わない時間が増えてきました。スタッフからも「光熱費も含めてもったいない」という声が挙がり、理事会でも話し合った結果、今年8月に事務所の間仕切り工事をして現在の3分の1ほどに縮小する予定です。縮小した事務所で19ヵ月活動したあと、2022年3月をもって、大阪の事務所機能は終息したいと考えています。

この問題はCOMLにとって重要な内容なだけに、理事会で決定するわけにはいきません。総会の議決事項として定められている定款第23条(8)「その他運営に関する重要事項」に相当するため、“社員”である正会員の皆さんの意思で決定する必要があります。そこで、5月16日(土)12時から予定している2020年度総会に審議事項として提出する予定です。

総会終了後は、30周年記念行事として在宅医療を描いた映画『ピア まちをつなぐもの』(会報誌2019年7月号4~5ページ「ここにとまったこんな取り組み」で紹介)の自主上映会を総会と同じ会場のドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター/大阪市中

央区大手前1-3-49)で13時過ぎから開きます。

そして17時からは会場を大阪梅田のグランフロントにあるフォーダブリュ(W.WWW)というお店に移し、30周年記念パーティを予定しています。大阪で開催する大きなイベントとしては、これが最後になるかもしれません。それだけに、これまでCOMLを大切に育てていただいた関西の皆さんに感謝の気持ちをお伝えする会にするともに、COMLを支援してくださっている全国の皆さんにお集まりいただいて、今後の発展を誓う集いにもしたいと考えています。

どうか、COMLのつぎなるステージに向かう想いをご理解いただき、見守り、ご支援いただきますよう、こちらよりお願い申し上げます。

